



2022年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2021年11月11日

上場会社名 福留八ム株式会社

上場取引所 東

コード番号 2291 URL <http://www.fukutome.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 福原 治彦

問合せ先責任者 (役職名) 常務執行役員 経理部長 (氏名) 深町 誠

TEL 082-278-6161

四半期報告書提出予定日 2021年11月12日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第2四半期の連結業績(2021年4月1日～2021年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第2四半期	12,264		191		162		120	
2021年3月期第2四半期	12,572	1.3	189		173		186	

(注) 包括利益 2022年3月期第2四半期 243百万円 (%) 2021年3月期第2四半期 122百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第2四半期	36.17	
2021年3月期第2四半期	55.86	

(注) 第1四半期連結会計期間の期首より、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用しており、上記の連結経営成績は当該会計基準を適用した後の金額となっており、売上高については対前年同四半期増減率は記載していません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第2四半期	15,575	4,105	26.4
2021年3月期	15,853	4,348	27.4

(参考) 自己資本 2022年3月期第2四半期 4,104百万円 2021年3月期 4,347百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期		0.00		0.00	0.00
2022年3月期		0.00			
2022年3月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日～2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	25,200		200		150		15		4.50

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

第1四半期連結会計期間の期首より、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用しており、上記の連結業績予想は当該会計基準を適用した後の金額となっており、売上高については対前期増減率は記載していません。

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 有 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年3月期2Q	3,400,000 株	2021年3月期	3,400,000 株
期末自己株式数	2022年3月期2Q	62,986 株	2021年3月期	62,986 株
期中平均株式数(四半期累計)	2022年3月期2Q	3,337,014 株	2021年3月期2Q	3,337,068 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計方針の変更)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。この結果、前第2四半期連結累計期間と収益の会計処理が異なることから、以下の経営成績に関する説明の売上高については、増減額及び前年同期比（%）を記載せずに説明しております。詳細につきましては、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更）」をご参照ください。

（1）経営成績に関する説明

第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症拡大に加え、感染力の強いデルタ株の流行により、緊急事態宣言等が延長されるなど、経済活動に制限がかかる状況が続いております。ワクチン接種の進展とともに経済・生産活動の再開に持ち直しが見られるものの、依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。

当業界におきましては、新型コロナウイルス感染症拡大にともない、内食化が堅調に推移したものの、先行きへの不安からくる消費者の低価格・節約志向は厳しさを増し、競合他社との価格競争の激化や一部原材料価格の上昇、さらには原油価格の高騰に起因する動力費及び包装材料価格の上昇もあり、依然として厳しい環境で推移いたしました。

このような状況のなか、当社グループは、今期を2年目とした「中期経営計画2021年3月期 - 2023年3月期」において、「消費者ニーズにあった新たな商品開発と販売戦略の構築と実行」をテーマとして「商品開発の強化」、「販売戦略の構築と実行」、「新規市場へのチャレンジ」の三点に取り組んでおります。新型コロナウイルス感染症拡大下において、消費者の食に関するライフスタイルの変容や消費行動は多様化し、様々な需要に対応するため、家庭内での消費に対応した商品展開や新商品の開発、さらには既存商品のブラッシュアップと拡販に取り組んでまいりました。

利益面につきましては、ここ数年来の競合他社との価格競争による販売単価の低下や原材料価格の上昇等による製造コスト増加の影響により収益が圧迫され、継続営業赤字を余儀なくされておりますが、営業キャッシュ・フローは継続して黒字で推移しております。引き続き、原材料価格の上昇や原油価格の高騰の影響が懸念されますが、早期黒字化に向けて中期経営計画に基づく施策展開をさらに加速し、原価低減、生産性改善による収益性のさらなる向上、体質強化に努めてまいります。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、122億64百万円（前年同四半期は125億72百万円）となりました。利益につきましては、営業損失は1億91百万円（前年同四半期は営業損失1億89百万円）、経常損失は1億62百万円（前年同四半期は経常損失1億73百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は1億20百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失1億86百万円）となりました。なお、収益認識会計基準の適用により、当第2四半期連結累計期間の売上高は2億83百万円減少しております。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

加工食品事業

加工食品事業におきましては、既存商品をブラッシュアップした環境にやさしいエコトレイ使用の「野菜といっしょにシリーズ」の「うす切りパストラミハム」や豚肩ロース肉を使用した厚切りステーキタイプの「ハムステーキ」、昨年販売した「あらびきKING」の新シリーズ「あらびきKING レモン&パセリ」、「肉厚ハンバーグ」シリーズ等が堅調に推移いたしました。しかしながら、緊急事態宣言等の延長や夏場の天候不順も重なり、BBQ商材の中容量タイプやインスタ用商材等の販売が落ち込んだ事や収益認識会計基準の適用等により、売上高は減少しました。

その結果、売上高は54億16百万円（前年同四半期は58億10百万円）、セグメント利益（営業利益）は1億21百万円（前年同四半期比44.8%減）となりました。なお、収益認識会計基準の適用により、当第2四半期連結累計期間の売上高は1億43百万円減少しております。

食肉事業

食肉事業につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大やデルタ株の流行の影響により外食需要は引き続き厳しさを極めるなか、国産豚肉の「八女もち豚」や輸入豚肉の「大麦仕上三元豚」を中心としたブランド商品提案を強化してまいりました。売上高につきましては、国産牛肉は出荷頭数の減少により高値で推移し、売上高は増加したものの、国産豚肉は、前年同四半期に比べ内食需要の高まりが落ち着いた事や夏季における発育不良に伴い出荷頭数が減ったことにより売上高は減少いたしました。輸入牛肉、輸入豚肉は堅調に推移し、北米産ビーフ等が売上を伸ばし、食肉事業全体の売上高は増加いたしました。利益につきましては、海外のコンテナや人手

不足による入船遅れがあったものの、採算重視の販売に努めたことや仕入れの見直し、在庫の適正管理による余剰在庫の削減、さらには物流費等のコスト削減努力により前年同期を上回りました。

その結果、売上高は68億47百万円（前年同四半期は67億61百万円）、セグメント損失（営業損失）は26百万円（前年同四半期はセグメント損失（営業損失）1億24百万円）となりました。なお、収益認識会計基準の適用により、当第2四半期連結累計期間の売上高は1億40百万円減少しております。

（2）財政状態に関する説明

①資産、負債、純資産等の状況

（資産の部）

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ2億77百万円減少の155億75百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ38百万円減少の62億51百万円となりました。主な要因は、商品及び製品37百万円、原材料及び貯蔵品40百万円、受取手形及び売掛金26百万円の増加と現金及び預金1億75百万円の減少によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ2億38百万円減少の93億24百万円となりました。主な要因は、投資有価証券1億77百万円及び土地66百万円の減少によるものであります。

（負債の部）

当第2四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ34百万円減少の114億70百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ2億30百万円増加の72億38百万円となりました。主な要因は、支払手形及び買掛金2億90百万円の増加と短期借入金34百万円の減少によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ2億64百万円減少の42億31百万円となりました。主な要因は、長期借入金1億26百万円及び退職給付に係る負債64百万円の減少によるものであります。

（純資産の部）

当第2四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べ2億43百万円減少の41億5百万円となりました。主な要因は、その他有価証券評価差額金1億30百万円、利益剰余金1億20百万円の減少によるものであります。

②連結キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ1億75百万円減少の23億39百万円（前連結会計年度比7.0%減）となりました。

各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、70百万円（前第2四半期連結累計期間は17百万円の資金獲得）となりました。主な要因は、減価償却費2億63百万円、仕入債務の増加額2億21百万円と税金等調整前四半期純損失1億7百万円、退職給付に係る負債の減少額56百万円によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、47百万円（前第2四半期連結累計期間は1億51百万円の資金使用）となりました。主な要因は、有形固定資産の取得による支出1億61百万円及び有形固定資産の売却による収入1億21百万円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、1億98百万円（前第2四半期連結累計期間は2億9百万円の資金使用）となりました。主な要因は、長期借入金の返済による支出1億61百万円によるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年3月期の連結業績予想については、2021年5月14日に公表したもののから修正いたしました。詳細は本日別途公表いたしました「2022年3月期第2四半期連結累計期間業績予想値と実績値の差異及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,635	2,459
受取手形及び売掛金	2,443	2,469
商品及び製品	932	969
仕掛品	45	48
原材料及び貯蔵品	203	243
その他	30	60
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	6,290	6,251
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,792	2,829
機械装置及び運搬具（純額）	884	881
土地	3,003	2,937
リース資産（純額）	157	131
建設仮勘定	11	4
その他	50	66
有形固定資産合計	6,900	6,850
無形固定資産	142	132
投資その他の資産		
投資有価証券	2,305	2,127
その他	365	363
貸倒引当金	△152	△149
投資その他の資産合計	2,519	2,341
固定資産合計	9,563	9,324
資産合計	15,853	15,575

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,074	2,365
短期借入金	4,094	4,059
未払法人税等	41	34
賞与引当金	159	159
その他	638	619
流動負債合計	7,008	7,238
固定負債		
長期借入金	2,033	1,906
役員退職慰労引当金	324	332
退職給付に係る負債	1,614	1,549
その他	524	443
固定負債合計	4,495	4,231
負債合計	11,504	11,470
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,691	2,691
資本剰余金	1,503	1,503
利益剰余金	△538	△659
自己株式	△80	△80
株主資本合計	3,575	3,454
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	788	658
退職給付に係る調整累計額	△16	△8
その他の包括利益累計額合計	772	649
非支配株主持分	0	0
純資産合計	4,348	4,105
負債純資産合計	15,853	15,575

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)
売上高	12,572	12,264
売上原価	10,398	10,352
売上総利益	2,174	1,912
販売費及び一般管理費	2,363	2,103
営業損失(△)	△189	△191
営業外収益		
受取利息及び配当金	24	25
不動産賃貸料	29	27
その他	12	26
営業外収益合計	67	79
営業外費用		
支払利息	32	34
不動産賃貸費用	14	13
その他	4	2
営業外費用合計	51	50
経常損失(△)	△173	△162
特別利益		
固定資産売却益	-	54
特別利益合計	-	54
税金等調整前四半期純損失(△)	△173	△107
法人税、住民税及び事業税	12	13
法人税等合計	12	13
四半期純損失(△)	△186	△120
非支配株主に帰属する四半期純利益	0	0
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△186	△120

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
四半期純損失(△)	△186	△120
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	297	△130
退職給付に係る調整額	11	7
その他の包括利益合計	309	△122
四半期包括利益	122	△243
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	122	△243
非支配株主に係る四半期包括利益	0	0

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失 (△)	△173	△107
減価償却費	262	263
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△37	7
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	12	△2
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△36	△56
受取利息及び受取配当金	△24	△25
支払利息	32	34
固定資産売却益	-	△54
補助金収入	-	△12
売上債権の増減額 (△は増加)	22	△26
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△24	△80
仕入債務の増減額 (△は減少)	97	221
その他	△79	△63
小計	51	96
利息及び配当金の受取額	24	25
利息の支払額	△33	△34
補助金の受取額	-	1
法人税等の支払額	△25	△17
営業活動によるキャッシュ・フロー	17	70
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△127	△161
有形固定資産の売却による収入	-	121
投資有価証券の取得による支出	△7	△7
無形固定資産の取得による支出	△18	△1
その他	1	1
投資活動によるキャッシュ・フロー	△151	△47
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△10	-
長期借入金の返済による支出	△166	△161
リース債務の返済による支出	△32	△36
財務活動によるキャッシュ・フロー	△209	△198
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△343	△175
現金及び現金同等物の期首残高	2,392	2,515
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,048	2,339

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

1. 収益認識に関する会計基準等の適用

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。これにより、従来、顧客に支払われる対価の一部を販売費及び一般管理費に計上しておりましたが、これら顧客に支払われる対価は売上高から控除して表示しております。また、有償支給取引については、従来は支給先から受け取る対価を収益として認識しておりましたが、当該収益を認識しない方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っておりますが、利益剰余金の当期首残高に与える影響はありません。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は2億83百万円減少し、売上原価は53百万円、販売費及び一般管理費は2億29百万円それぞれ減少いたしました。また、営業損失、経常損失及び税金等調整前四半期純損失に影響はありません。

なお、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第2四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載していません。

2. 時価の算定に関する会計基準の適用

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計
	加工食品事業	食肉事業	
売上高			
外部顧客への売上高	5,810	6,761	12,572
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	5,810	6,761	12,572
セグメント利益又は損失(△)	219	△124	94

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	94
全社費用(注)	△284
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△189

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であり、管理部門に係る費用であります。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		合計
	加工食品事業	食肉事業	
売上高			
外部顧客への売上高	5,416	6,847	12,264
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	5,416	6,847	12,264
セグメント利益又は損失(△)	121	△26	94

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	94
全社費用(注)	△286
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△191

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であり、管理部門に係る費用であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの売上高の算定方法を同様に変更しております。利益又は損失については変更ありません。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間の「加工食品事業」の売上高は1億43百万円減少し、「食肉事業」の売上高は1億40百万円減少しております。